

絵を描こう心を整えよう



【作品名】 鷹（たが）
【作家】 葛迫 幸平

絵は人の心を写し出す

いまだコロナ禍が続く中、当たり前になってきたことが出来なくなった。大好きな趣味ができない。大切な人に会いにいけないなど、今までであれば、何気なくできていた部分で、ストレスが発生してしまっています。人の心は、そういったストレスにさらされ、少しずつ乱れていってしまふのかもしれない。

そんな状態を少しでも改善する方法はないかと思案し、今回は「絵」に着目しました。「絵は人の心を写し出す」そんな言葉があるように、絵を描けば、心を整えるヒントをもたえるかもしれません。

今月号では、垂水を代表する画家、葛迫幸平先生にご協力いただき、絵が心に与える影響や垂水の絵の歴史を紹介するとともに、市民の皆様絵を描くことの大切さを伝えたいと思います。

絵を描く大切さ

絵を描くことは、人に思いを伝える情報伝達手段だと思っています。子ども達を見ると、一生懸命しゃべる子より、普段あまりしゃべらない子の方が、一生懸命に絵を描きます。しゃべる子は、普段の生活のなかで、自分で情報を発信できるけれど、しゃべりが苦手な子は、情報を上手に発信できない。だから、ペンを握って、皆に分かってほしいことがあるんだと思います。

また、大方の絵描きは、しゃべることが苦手なんです。絵を描くということで、人の営みに対して、人間はこうあるべきじゃないのか、ということとを人に伝える。例えば、現在のコロナ禍において、人間はこう生きないといけないなどの「思いを絵で表現し、伝える。」それが絵を描く一番の狙いであって、また大切なことなんだと思います。

絵を描くこと心との関係について

歴史を垣間見ると、絵が生まれたのは、文字が生まれるよりはるかに前のことです。小さいお子さんも、言葉をしゃべれるようになって、文字を書けるようになる前に、絵を描けるようになりますよね。昔は、狩猟の方法などを絵に描き、人に伝えていました。人々が「生きるために」絵は不可欠なものだったのだと思います。そういった意味でも、絵は人間の潜在意識の中に大きく存在していると思います。

例えば、悩みがあるときに、誰かに話すと心が軽くなったという経験があるかと思うます。それと一緒に、言葉の次に絵を描くことを覚える人間は、心の状態を絵に描くことで、きつと心が軽くなると思っています。僕も絵を描き終え、最後にサインを入れると、心がすごく開放的になります。



【略歴】

昭和 29 年垂水市市木生まれ
京都造形芸術大学で芸術学を専攻、
大阪造形美術学校で洋画を学ぶ。
1978 年 第 38 回美術文化展 新人賞
2000 年 第 3 回雪舟ますだ美術大賞展 グランプリ
2002 年 56 回南日本美術展 吉井賞（欧州留学賞）
2003 年 パリ留学
2015 年 第 24 回英展 佳作賞など多数の受賞歴
現在 日本美術家連盟会員、南日本美術展委嘱作家

Special interview 洋画家 葛迫 幸平